

A-T(毛細血管拡張性運動失調症)とがんのリスク

A-T 患者のおおよそ 25% はがんを発症します。発症例が多いのはいわゆるリンパ腫と白血病で、白血球のひとつであるリンパ球に発生します。これらのがんはあらゆる年齢で発症する可能性があります。現在のところ、どの A-T 患者ががんを発症しやすいのかを予測する方法はありません。普通、リンパ腫は、リンパ節（頸部、胸部、腹部）の部位にしこり、腫れとなって現れます。発熱を繰り返すことはありますが、他の症状（咳、咽喉痛など）はほぼありません。白血病の初期症状は出血しやすくなること、あざ、発熱、倦怠感があること、顔色が悪く、骨に痛みを感じることなどです。



検査

症状が現れない段階での定期的検査は白血病またはリンパ腫の早期発見にそれほど有効ではありません。さらに、白血病の治療法および予後は一般的に発病した白血病のタイプにより異なり、診断時点で白血病がどれだけ広がっているのかには大きく影響されません。このことは他のがん（大腸がん、乳がん、肺がん）と異なり白血病では、できるだけ早期に診断することが効果的である、とは言えないことを示します。リンパ腫、白血病、その他のがんが疑われる場合、血算 (CBC) やその他の血液検査をするべきかについては、主治医の判断に従ってください。

治療

リンパ腫および白血病の治療は可能です。また A-T 患者が使用できる化学療法薬がいくつかあります。A-T 患者ががん治療を受ける場合 A-T をよく理解するがんの専門医に相談することを強く推奨します。

リンパ腫、白血病を疑った方がよい兆候

- ・他の症状がないにもかかわらず、発熱を繰り返す、または熱が続く
- ・出血
- ・あざ
- ・顔色が悪い
- ・頸部、脇の下、股の付け根、腹部のリンパ節の腫れ
- ・体の痛み、骨の痛み

リンパ節の場所とその他の症状

